

【初期生育は3～4日の遅れ、茎数少なめ】

1. 水稻の生育状況

田植え以降5月中～下旬が好天で推移したため、活着は良好であったものの、6月に入ってから低温・寡照及び強風日が続いたことで、葉色の淡い圃場が目立ち、分けつの発生も緩慢となっております。

葉齢からみた「あきたこまち」の生育状態は、『**3～4日程度の遅れ**』となっており、草丈“**やや短め**”、茎数は“**少なめ**”で、田植え期が本年とほぼ同時期であった前年との比較でも草丈、茎数、葉齢とも下回っております。

今後は**好天日に浅水管理による地温確保**を心がけ、生育の回復に努めてください。

水稻定点調査圃の生育状況(6月7日)

品種(平均)	草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉齢(葉)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
あきたこまち	22.9	25.1	79	105	5.3	6.0
(慣行)	21.5		72.5		5.1	
(側条ペ-スト等)	24.0		85.3		5.4	
前年比	97%		73%		-0.2葉	
平年比	91%		75%		-0.7葉	
たつこもち	30.2	26.8	76	114	5.2	5.9
きぬのはだ	26.4	27.6	88	108	5.6	6.0
ときめきもち	28.4	27.0	84	103	5.2	5.8

2. 今後の技術対応

1) 水管理

表層剥離の発生が多く見られる圃場については、水の入替えや浅水管理を実施し、茎数確保に努めてください。

2) 還元障害対策

還元障害(ガス害)による酸素不足で分けつの発生等が少ない圃場では、晴天日に3日～4日程度落水し、その後入水するなど改善に努めてください。

3) その他病虫害防除

現在、イネミズゾウムシによる葉の食害が見受けられます。食害が見られた場合は、つぎの薬剤を散布し防除に努めてください。【トレボン粒剤2～3kg/10a】

4) [いもち病対策]

補植用苗を長く圃場に置くと、いもち病の発生原因となりますので、**速やかに補植を終了し、苗を処理**してください。

また、床土混和や育苗箱処理等の対策を施していない場合は、つぎの薬剤で予防に努めてください。

薬剤名	散布量/10a	使用時期
オリゼメート粒剤	2kg	あきたこまち 6/12～18日頃散布
ブイゲット粒剤		